別紙様式２

指定校番号	29030	学級活動	○	生徒会活動		学校行事		中学校用

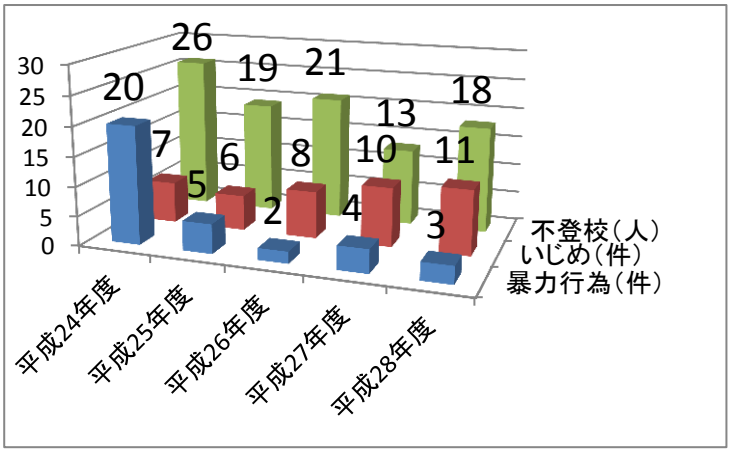
平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東朋中学校	校　長	胃甲　登	生徒指導主事	酒井　盛浩

取 組 事 例 名	『毎日の学活で生徒の自主性を育む取組』

取　組　の　ね　ら　い『キーワード　自治力』

〈生徒が自ら課題に気付き自ら解決するための学活の在り方を学ぶ〉



東朋中学校は，平成 24 年度の暴力件数が 20 件という状況にあり，生徒間暴力や対教師暴力が頻発した。そのような中で，生徒指導体制を見直し，悪いことは悪いと毅然とした態度で問題行動に対処するようにした。その結果，平成 25 年度の暴力行為は 5 件と減少したが，いじめや不登校の生徒の数は減少しなかった。生徒アンケート（平成 28 年度 12 月実施）では，服装を守る取組や時間を守る取組等，基本的な集団生活を送るために必要な項目についての意識が高い一方，項目「集中して授業を受けている」に肯定的に回答した生徒 47.6%，同様に「自分には良いところがある」74.8%，「ボランティアに参加している」49.9%となっており，生徒がより良い学校生活を送るために自主的に行動するという状況ではないことがわかった。

このようなことから，より良い学校生活を送るために，生徒自らが課題に気付き，自ら解決するための方策を考え行動する生徒の育成を図ることをねらいとして，学活の充実を図る取組を行うこととした。

身に付させたい資質・能力

よりよい活動を目指して，建設的に話し合い，仲間と協力しながら，解決までの見通しや方法を自ら考え，進んで行動する力

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード　定着　』

〈生徒が論議し解決する場の設定をする〉

毎日の朝と帰りの学活を生徒自らが課題を見つけ，解決するための方策を考える場として位置付ける取組を行った。具体的には，全クラスが帰りの学活で一日の振り返りをし，課題があればそれを解決するための方策を考え，次の日の活動目標とし，朝の学活で活動目標を確認し，一日が始まるといった流れに統一した。学活の中では，課題を班や学級の全員のものとして意識する場と班や学級で課題を解決するために論議する場を必ず設定するようにした。

全学級が学活の流れを統一することで，新一年生として入学した当初から，東朋中学校の一日の生活のポイントとして学活を意識できるようにした。

また，上級生や下級生の学活を参観する機会をつくることで，生徒自身が自分たちの学活の在り方について考えることができるようにした。

さらに，学活をより良い学校生活を考える場とすることと同時に，生徒会の各種委員会の活動も新しい企画を立ち上げるなど活性化させ，各学級での論議を経て生徒会の取組が行われるようにした。

取組の課題・創意工夫　『キーワード　交流　』

〈生徒・教職員対象の学活交流会の実施〉

毎日の学活が生徒自身が学校生活を送るうえでの重要なポイントとして意識され定着するように，また，学活の質が向上するように，生徒と教職員が参加する全校での学活交流会を年３回実施した。

・第１回　新入生のための学活研修（３年生公開）

　３年生の学活を公開し，１年生全員が参観した。１年生は，３年生の学活から学んだことを発表し，教職員も気づきを発表した。公開後は，各学級で学活を活性化させるための方策について話し合い，目標を立てた。

・第２回　２年生の学活の充実のための学活研修（２年生公開）

・第３回　各学年の学活の充実のための学活研修（１年生公開）

〈論議をする場の設定「１日１議題」の取組〉

学活交流会の後，論議の場を意図的に設定するために，「１日１議題」の取組を行った。

日常の学校生活を充実させるために，どのような取組や心がけが必要かについて，意図的に議題を設定し，毎日学級でその議題をもとに話し合った。

取組の成果（効果）『キーワード　生徒主体　』

生徒自らが課題を見つけ解決するための方策を考える取組を進め，次のような成果が見えるようになった。

生徒アンケートの項目「自分には良いところがあると思う」で肯定的に回答した生徒の割合は，取組の前後で 74.8%から 81.4%に増加した。同様に「落ち着いて集中して授業を受けている」は 47.6%から 58.4%に，「ボランティア活動に参加している」は 49.9%から 64.3%に増加した。

これらのことから，教師主導の取組から生徒を主体とした学級や学校全体での取組に転換したことにより，受け身であった生徒の実態が変化してきていると考えられる。

今　後　の　展　開『キーワード　質の向上　』

学活と生徒会活動の連動を意識した論議については十分にできていない。今後は，生徒会活動の中で生徒が主体となって行事を企画し，運営していく取組を進めることで，学活や学級代表者会議等での論議を熱を帯びた質の高いものにしていく。そのためには，論議を活性化させるための司会のスキルを身に付ける研修会を実施することも必要であると考えている。

他校へのアドバイス『キーワード　維持継続　』

この取組は，生徒自らが課題を見つけ，解決するための方策を考える場を学校生活の中に位置付けることを目的に行った。学校全体の取組として行う場合，クラスによって取組の質が変わると効果が得られないので，常に各学級の学活がどのように動いているのかを把握し，取組を改善していく必要がある。